

君死にたまふことなかれ

(旅順口包圍軍の中に在る弟を歎きて)

あゝをとうとよ、君を泣く、
君死にたまふことなかれ、
末に生れし君なれば
親のなさはまさりしも、
親は刃やいばをにぎりせて
人を殺せとをしへしや、
人を殺して死ねよとて
二十四までをそだてしや。

堺さかひの街のあきびとの
旧家きゅうかをほこるあるじにて
親の名を継ぐ君なれば、
君死にたまふことなかれ、
旅順の城はほろぶとも、
ほろびずとも何事ぞ、
君は知らじな、あきびとの
家のおきてに無かりけり。

君死にたまふことなかれ、
すめらみことは、戦ひに
おほみづからは出でまさね、
かたみに人の血を流し、
獣けものの道に死ねよとは、
死ぬるを人のほまれとは、
大みこゝろの深ければ
もとよりいかで思おぼされむ。

あゝをとうとよ、戦ひに
君死にたまふことなかれ、
すぎにし秋を父ぎみに
おくれたまへる母ぎみは、
なげきの中に、いたましく
わが子を召され、家を守り、
安しと聞ける大御代も
母のしら髪はまさりぬる。

暖簾のれんのかけに伏して泣く
あえかにわかき新妻にじつまを、
君わするるや、思へるや、
十月とつきも添はでわかれたる
少女とつきごころを思ひみよ、
この世ひとりの君ならで
あゝまた誰をたのむべき、
君死にたまふことなかれ。

『恋衣』(1905年1月)

山の動く日

ノルウェー語訳

Den dagen fjell vil bevege seg

Den dagen kommer

da fjell vil bevege seg.

Men folk tror meg ikke

nar jeg fortellor det.

De tror ikke at fjellene bare har sovet en stund.

For lenge siden brant de med rasende flammer

og beveget seg,

La vaere at fold ikke tror det,

hvis bare enhver ville tro :

at alle sovende kvinner er ved a vakne opp

og bevege seg.

Oversetter :

H. W. FREIHOV

(詩碑・堺女子短期大学)